



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

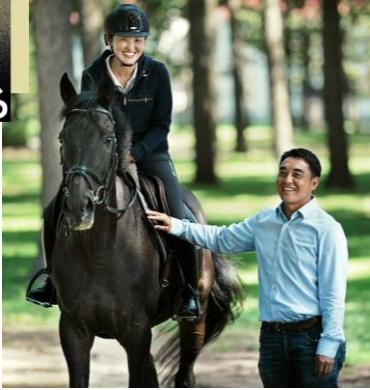
2022年12月11日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

競走馬の世界に飛び込んで

11日(日)=1、3面

迫る



日本中央競馬会に馬主登録をするクラブ法人「シルクレーシング」の代表を務める米本昌史さん(47)＝写真右＝は、37歳になる手前で競馬界に入りました。前職の不動産業を「天職」と思っていたのですが、ある縁に導かれるように未知の世界に飛び込んだのです。

初任地は福島・中通りの育成牧場「ノーザンファーム天栄」。東日本大震災で、坂路(傾斜を設けた調教コース)が崩れていました。米本さんに再建を託した牧場トップの指示は「とにかく山にぶつけろ」。場内の山裾を生かして坂路を改修することを命じたのです。

不動産業で培った人脈や知識を生かし再建にこぎ着けませんが、苦労はそれだけではありませんでした。自らのゴールを目指して走り続ける米本さんの挑戦に迫ります。



維新を巡る攻防

13日(火)=1、3面

10日に閉会した臨時国会では、「犬猿の仲」と言われた立憲民主党と日本維新の会が国会運営で初の共闘路線を組みました。消極的な政府・与党を揺さぶり、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)

の被害者救済法の成立にこぎつけるなど一定の成果を挙げました。焦った自民は維新への接近を強めようと躍起になっています。政界で何が起きているのか。その舞台裏を探ります。



会談に臨む(右から)自民党の茂木敏充幹事長、立憲民主党の岡田克也幹事長、日本維新の会の藤田文武幹事長＝国会内で2022年12月5日撮影

COP27の議長として記者会見するエジプトのサメハ・シュクリ外相「エジプトで2022年11月19日撮影」



論点 COP27 成果と課題

14日(水) II オピニオン面

気候危機への対応を議論する国連気候変動枠組み条約第27回締約国会議(COP27)が11月、エジプト・シャルムエルシェイクで開かれました。ロシアによるウクライナ侵攻後のエネルギー危機で化石燃料回帰の動きがあり、地球温暖化対策の停滞を懸念する声がある一方で、気象災害など温暖化の影響が指摘される被害は深刻化しています。COP27はどんな成果と課題を残したのか。参加した若者や識者に聞きました。

特集 **ワイド**

岸田文雄大研究

12、13、14日=夕刊特集ワイド

岸田文雄首相＝写真＝の就任から1年あまりがたちました。「聞く力」を掲げて船出し、ソフトな語り口やスマートな身のこなしも相まって「いい人っぽ

い」との印象でしたが、安倍晋三元首相の銃撃事件以降は潮目が変わり、支持率が下落を続けています。「物足りない」「頼りない」という声しきりの岸田首相に

ついて、高校、大学時代の友人や恩師、岸田首相を支える国会議員らに取材し、3回シリーズで人物像を描き直してみました。



竹橋の窓辺から

編集後記

毎日新聞社は27日、オンラインイベント「取材記者が語る表現者・羽生結弦の『新たな挑戦』」を開きます。羽生さん初のプロ転向後の「プロアイスショー」が終わったばかり。イベントに羽生さんが現場で取材したカメラマンらがショーの舞台裏を未掲載の写真とともに振り返り、「競技者」から「表現者」へと歩み始めた羽生さんの姿を報告します。ご期待下さい！
(齋藤有香)



MAINICHI
新毎日

150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年